

3. 差異の理由

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による巣ごもり需要を背景に、国内事業であるリユース事業では、買取・販売件数が拡大し、コミックのセット品やゲームソフト等の高単価商材を中心に単価の向上も見られ、粗利益率の改善、販管費の抑制施策や広告宣伝の効果的な運用により、創業以来の月間最高収益・最高利益を更新しました。小型家電リサイクル事業では、自治体・家電量販店との連携拡充と広告宣伝の強化が奏功し、事業開始以来の最高売上・利益を達成しました。

一方で、海外事業の拠点であるカンボジア王国では、主要産業の一つである観光業（関連運輸業を含む）を中心に大きな打撃を受けており、車両販売事業・リース事業では、今後の短期的な市場の回復は見込めないため、新規営業を大幅減速しました。

車両販売事業は、観光業（関連運輸業を含む）に従事する債務者に対しての返済リスクスケジュールへの対応と回収不足額等に備えて、当該債権に対する貸倒引当金繰入額等の特別損失を計上しました。

その結果、営業収益は概ね前回発表予想通りとなり、営業利益・経常利益については予想を上回りましたが、特別損失 1,711 百万円を計上したことにより親会社株主に帰属する当期純利益が予想を下回りました。

以 上